

## 施策（二次）評価シート（案）

《健康領域：人の健康》 基本目標 1：一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち

## 個別目標 1-1 「心身の健康を維持・増進する」

構成する めざす成果	1-1-1 「市民一人ひとりが健康づくりに取り組んでいる」	
	主な取り組み	体操教室や食生活に関する講座の開催、保健師や管理栄養士による個別訪問、健康普及活動を行うボランティアの育成、がん検診の機会拡大と受診の促進など
	1-1-2 「心身の健康を維持・増進するための体制が整っている」	
	主な取り組み	感染症対策の啓発、65歳以上へのインフルエンザ予防接種費用の助成、こころサポーターの育成・心の健康相談等による自殺防止対策の実施など

## 前回の評価結果（平成 21～23 年度分）

市民意識調査によると、「あなたは、健康であると思う」市民の割合と「あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う」市民の割合については、以前に比べいずれも伸びており、一定の評価ができるものと考えます。今後は、各種検診の推進により、疾病が早期に発見され、市民の健康維持に繋がっているかについて、この先数年かけて検証していくことが必要と思われます。一方では、一部のがん検診などにおいて当初は飛躍的に受診率が伸びたものの、現在、伸び悩んでいるものもあります。働く世代を中心により一層のPRに努めることに加え、週末の検診機会を拡大するなど、より受診しやすくなる工夫を行い、市民一人ひとりの健康づくりをさらに助長していくことが必要と考えます。

また、自殺者の割合は、平成 23 年には県の平均値を下回り、これまでの取り組みが自殺者の減少につながっていると考えられます。今後も、市の取り組みなどを周知することで自殺予防に向けた意識啓発を一層促すことが必要です。さらに、自殺に傾く人々に対して注意を払いながら相談にのることができるこころサポーターの養成に継続的に取り組むことなどで自殺の未然防止を図っていくことが望まれます。

## 追加の評価（平成 24～25 年度分）

疾病を早期に発見するための取り組みについて、がん検診の受診率が前回評価時と比べて全体的に向上しており、無料クーポン券事業や受診勧奨の徹底などに効果があったものと評価できます。なお、乳がん検診の受診率は伸び悩んでいるため、より受診しやすい環境づくりに努める必要があると考えられます。また、保健師による訪問活動については、指導後に健診の検査数値の改善がみられるなど、健康創造都市の実現を目指す市のモデル的な取り組みとして評価することができます。さらに、大和市の 1 人あたりの医療費は周辺市と比較しても低い水準にあり、市民一人ひとりの健康づくりを促すという方向性は的確なものであると評価できます。

自殺による死亡率は減少に転じており、計画に定める目標値の達成に向けて、さらに粘り強い取り組みが求められます。市内の駅に設置している「こころの健康相談」に関する看板を見た人から、電話相談を受けて実際に自殺を思い留まったという事例もあるなど、市民の身近な場所で地道な取り組みが行われていることは評価できます。

## 今後の施策展開に向けて

乳がん検診のうち、特にマンモグラフィ検査については、予約が取りにくい状況にあると思われることから、受診可能医療機関の増加や受付期間の延長など、受診率の向上に向けた検討を進めてください。また、保健師による訪問指導は、個人の健康維持・増進に加え、医療費全体の抑制が期待できるなど、有用な取り組みであると捉えられますが、費用対効果に留意したうえで、さらなる展開を図ってください。

感染症等の蔓延防止に向けた予防接種に関する情報提供について、小児用の予防接種で行われている子育て世帯への対応は充実が図られていると捉えられますが、高齢の方など、携帯端末等の機器の利用に不慣れな方にも情報格差による不利益が生じることのないよう配慮し、多くの人が適切な時期に受診できる環境づくりに努めてください。